

函館中央病院 臨床研修プログラム

（令和8年度版）



社会福祉法人 函館厚生院

函 館 中 央 病 院

●臨床研修プログラム

・プログラムの特色と目標

- 特色: 1) 厚生労働省のカリキュラムを最低限の研修内容とし、研修医各自の研修希望・目標に配慮し、個別的内容を付加したプログラムを設定する研修方法である。
- 2) 当院は、地域の第一線の一般臨床病院であり、疾患領域も偏ることなく、豊富な症例を通じて、急性疾患から慢性疾患まで、多岐にわたる臨床研修ができるプログラムとなっている。

目標: 将来どのような専門分野に進むにせよ、外来・病棟・救急各部門の診療ができる資質を備えた総合臨床医 (General Physician) を2年間で育成するための臨床研修プログラムである。

・研修方式

1) 1年次: 必修科目である内科24週以上(糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科 各8週以上)、救急8週以上(内4週までの麻酔科指導医による専門研修。その他、地域における二次救急指定日において、救急専門医(診療支援)、内科系、外科系、小児科の各1名を指導医とした研修体制にて対応する。)、外科4週以上、麻酔科4週以上、小児科4週以上、産婦人科4週以上、精神科4週以上のローテーションとし、補足については、2年次の選択科研修にて対応する。

2) 2年次: 必修科目である地域医療4週以上のローテーションとし、救急4週の研修については、1年次同様、二次救急指定日にて対応する。それと1年次の補足以外は選択科研修期間となり、将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科を選択する。選択科目により、協力型病院と協力して研修を実施する。

※一般外来研修は、内科および小児科、外科研修時に並行研修にて行い、地域医療研修時に協力型病院にて行い達成する。

※二次救急研修については、2年間を通して、診療科ローテーションとは別枠にてローテーションを組んでの対応とし、翌日の勤務免除とする。

※地域医療研修は、松前町立松前病院・ななえ新病院・八雲総合病院・奥尻町国民健康保険病院(4病院から選択)における地域医療の理解と実践に関する研修にて対応する。

※研修期間中のアルバイト診療は、禁止する。

・研修参加施設

基幹型病院：社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院

協力型病院：社会医療法人函館博栄会 函館渡辺病院(精神科)
松前町立松前病院(地域医療)
社会福祉法人函館厚生院 ななえ新病院(地域医療)
八雲総合病院(精神科・地域医療)
奥尻町国民健康保険病院(地域医療)
北海道大学病院(一般診療)
函館稜北病院(総合診療)
市立函館保健所(保健・医療行政)
渡島保健所(保健・医療行政)

・研修内容

- 1) 総合診療方式
- 2) 選択科の期間は各専門科でのローテーション研修とする。

・研修評価方法

研修開始に当たり、EPOCを使用し、各研修医に自己評価を行わせる。指導医は随時、研修医の自己評価を点検し、研修医の到達目標が達成されるように援助するとともに、評価を行う。

・プログラム修了の認定

研修を終了した時点で、病院長は臨床研修管理委員会の意見、研修医からの一般的目標達成のための行動目標自己評価を参考に修了を認定し、認定証明書を発行する。

・研修修了後の進路

当院における内科系、外科系、小児科の基幹・関連の専門研修プログラムによる研修が可能である。

●臨床研修分野ごとの研修期間及び臨床研修病院

〔研修プログラム責任者名および役職：片岡 宙門 函館中央病院 副院長〕

(凡例)

		4月												3月
		4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
1年次	研修分野	内科*2 (糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科 各8週以上)						麻酔科	救急*1 (麻酔科)	小児科 *2	外科	産婦 人科	精神科	救急*1
	研修病院・ 施設名	函館中央病院(精神科)・函館渡辺病院・八雲総合病院												
2年次	研修分野	地域 医療*2	救急*1	自由選択科*3										
	研修病院・ 施設名	●	函館中央 病院	函館中央病院・北海道大学病院・函館渡辺病院・八雲総合病院・函館稜北病院										

地域医療: 松前町立松前病院・ななえ新病院・八雲総合病院・奥尻町国民健康保険病院 保健行政: 保健所(市立函館・渡島)

- *1: 救急部門研修は、麻酔科(ICU)における挿管・血管確保などの基本手技の習得(8週以上の内4週)および、救急外来(当直)における初期救急医療の現場体験(2年間を通しての輪番日におけるローテーションにて8週分以上)とする。
- *2: 一般外来研修は、内科および小児科研修時に並行研修にて行い、地域医療研修時に協力型病院にて行い達成する。
- *3: 将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科で研修。選択科目により、協力型病院と協力して研修を実施。

●令和8年度 年間スケジュール (予定)

		4月												3月												
		4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週												
1年次	ローテーション(凡例)	内科*2 (糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科 各8週以上)						麻酔科	救急*1 (麻酔科)	小児科 *2	外科	産婦 人科	精神科	救急*1												
	共通事項	オリエン テーション																								
		救急研修																								
		ジャーナルクラブ (毎週金 AM8:00～AM8:50)																								
		モーニングレクチャー (毎週水 AM8:00～AM8:30)																								
		救急研修カンファレンス (毎週水・金 PM4:00～PM5:00)																								
		CPC・ケーススタディカンファレンス (年1回以上開催予定)																								
		剖検 [内科ローテ中(受持)⇒助手／見学希望⇒随時]																								
		各診療科におけるカンファレンス																								
2年次	ローテーション(凡例)	地域 医療*2	救急*1	自由選択科																						
	共通事項	救急研修																								
		ジャーナルクラブ (毎週金 AM8:00～AM8:50)																								
		モーニングレクチャー (毎週水 AM8:00～AM8:30)																								
		救急研修カンファレンス (毎週水・金 PM4:00～PM5:00)																								
		CPC・ケーススタディカンファレンス (年1回以上開催予定)																								
		剖検 [内科ローテ中(受持)⇒助手／見学希望⇒随時]																								
		各診療科におけるカンファレンス																								
全般	臨床研修管理委員会 (年3回定例開催)																									
	臨床研修病院 合同プレゼン				選考試験	マッチング 中間公表	マッチング 決定	仮契約					臨床研修病院 合同プレゼン													
	実習生受入																									
					図書の 選定					図書の 選定																

氏 名	研修領域	所 属	役 職	資 格 等		臨床研修管理委員会
金山 雅弘	整形外科	函館中央病院	病院長	指導医	病院管理者	委員
片岡 宙門	産婦人科	函館中央病院	副院長	臨床研修指導医	プログラム責任者	委員長
橋田 秀明	外科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		副委員長
佐々木 春喜	内科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		委員
紺野 潤	消化器内科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
人見 遥平	消化器内科	函館中央病院	医長	指導医		委員
佐々木 秀直	脳神経内科	函館中央病院	名誉臨床顧問	臨床研修指導医		委員
笹木 有佑	腫瘍内科・緩和ケア科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		***
高橋 清彦	糖尿病・内分泌内科	函館中央病院	科長	指導医		委員
斉藤 尚孝	循環器内科	函館中央病院	副院長	臨床研修指導医		委員
佐々木 真樹	小児科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		委員
木田 毅	小児科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
水上 晋	小児科	函館中央病院	嘱託医	臨床研修指導医		***
中島 美佳	小児科	函館中央病院	主任科長	臨床研修指導医		***
児嶋 哲文	外科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
平口 悦郎	外科	函館中央病院	副院長	臨床研修指導医		***
高橋 徹	外科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
石倉 久光	整形外科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
塩田 浩平	整形外科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
本田 進	形成外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
木村 中	形成外科	函館中央病院	嘱託医	臨床研修指導医		***
吉田 俊人	心臓血管外科	函館中央病院	主任科長	臨床研修指導医		***
村瀬 亮太	心臓血管外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
本橋 雅壽	心臓血管外科	函館中央病院	名誉院長	臨床研修指導医		***
今井 哲秋	脳神経外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
堀田 萌子	皮膚科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
鈴木 英孝	泌尿器科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
田沼 史恵	産婦人科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		***
相原 佑亮	眼科	函館中央病院	科長	指導医		委員
安川 真一郎	耳鼻咽喉科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
吉田 幸宏	メンタルヘルス科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		***
瀧川 聡	麻酔科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		委員
高橋 千尋	放射線科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
吉川 仁人	放射線科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
藤田 信行	放射線科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
中里 信一	病理診断科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		委員
辻 司	歯科口腔外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
水島 貴之	***	函館中央病院	事務部長	事務部門責任者		委員
吉川 真由美	看護部	函館中央病院	看護部長	看護部門指導責任者		委員
久米 央子	薬剤部	函館中央病院	薬剤部長	指導者		委員
大井 雅人	診療協力部	函館中央病院	診療協力部管理担当部長	指導者		委員
常德 正洋	放射線診断科	函館中央病院	放射線科技師長	指導者		委員
羽根川 立人	検査科	函館中央病院	検査科技師長	指導者		委員
大北 健雄	***	おおきた内科胃腸科医院	名誉院長	***		外部委員
小林 靖広	***	小林法律事務所	弁護士	***		外部委員
三國 雅彦	精神科	函館渡辺病院	副理事長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
八木田 一雄	地域医療	松前町立松前病院	病院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
高金 明典	地域医療	ななえ新病院	病院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
加藤 達哉	一般診療	北海道大学病院	教授	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
石田 博英	精神科・地域医療	八雲総合病院	院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
泉里 豪俊	地域医療	奥尻町国民健康保険病院	院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
佐々木 悟	総合診療	函館稜北病院	理事長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
山田 隆良	保健・医療行政	市立函館保健所	所長	指導医	研修実施責任者	委員
岩田 颯	保健・医療行政	北海道渡島保健所	技監兼保健環境部長	指導医	研修実施責任者	委員

●病院群概要

函 館 中 央 病 院（基幹型病院）

- 病院名 函館中央病院（プログラム責任者：片岡 宙門）
- 開設者 社会福祉法人 函館厚生院
- 病床数 一般 527 床 (ICU8 床) (NICU9 床)
- 診療科 内科、消化器内科、腫瘍内科、緩和ケア科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、乳腺外科、消化器外科、肛門外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、病理診断科、歯科口腔外科
- 病院長 金山 雅弘
- 所在地 〒040-8585 函館市本町 33 番 2 号
- 電 話 TEL0138-52-1231(代) FAX0138-54-1821

臨 床 研 修 理 念

- ◇命と健康を第一に尊重するプライマリ・ケアを行なえる医師の育成を目指す。
- ◇研修医の個性を活かし、伸ばしながら、医師としての人格を育む。

病院の特色

函館中央病院は昭和 5 年に社会福祉法人函館厚生院が経営する病院として開設され、創立 90 年を超える歴史ある病院です。

当院は「心ある医療」を基本理念とし、地域の基幹病院として急性期医療を中心に、小児・周産期医療、救急医療に力を入れると共に北海道がん診療連携指定病院としてがん医療にも注力してまいりました。また患者さまの権利を尊重しつつ、皆さまに安心・安全なチーム医療を提供することを基本方針としております。そのためには地域の医療機関との連携はもちろんのこと行政とも連携しつつ、職員が安心して働ける職場環境づくりと人材育成に力を入れております。

函館渡辺病院（協力型病院・精神科領域）

- 病院名 函館渡辺病院（研修実施責任者：三國 雅彦）
- 開設者 社会医療法人 函館博栄会
- 病床数 一般 120 床、精神 419 床
- 病院長 菅原 隆光
- 所在地 〒042-8678 函館市湯川町1丁目 31 番1号
- 電 話 TEL0138-59-2221(代)

松前町立松前病院（協力型病院・地域医療領域）

- 病院名 松前町立松前病院（研修実施責任者：八木田 一雄）
- 開設者 松前町長
- 病床数 一般 93 床
- 病院長 八木田 一雄
- 所在地 〒049-1593 松前郡松前町字大磯 174 番地の 1
- 電 話 TEL0139-42-2515(代)

ななえ新病院（協力型病院・地域医療領域）

- 病院名 ななえ新病院（研修実施責任者：高金 明典）
- 開設者 社会福祉法人 函館厚生院
- 病床数 一般 49 床、療養 150 床
- 病院長 高金 明典
- 所在地 〒041-1195 亀田郡七飯町字本町 7 丁目 657 番地 5
- 電 話 TEL0138-65-2525(代)

八雲総合病院（協力型病院・精神科領域・地域医療領域）

- 病院名 八雲総合病院（研修実施責任者：下出 和美）
- 開設者 八雲町長
- 病床数 一般 166 床、精神 100 床、感染症 4 床、療養 40 床
- 病院長 石田 博英
- 所在地 〒049-3197 二海郡八雲町東雲町 50 番地
- 電 話 TEL0137-63-2185(代)

奥尻町国民健康保険病院（協力型病院・地域医療領域）

- 病院名 奥尻町国民健康保険病院（研修実施責任者：泉里 豪俊）
- 開設者 奥尻町長
- 病床数 一般 17 床、療養 23 床
- 病院長 泉里 豪俊
- 所在地 〒043-1401 奥尻郡奥尻町字奥尻 462 番地
- 電 話 TEL0139-72-3151(代)

北海道大学病院（協力型病院・一般診療領域）

- 病院名 北海道大学病院（研修実施責任者：加藤 達哉）
- 開設者 国立大学法人 北海道大学
- 病床数 944 床
- 診療科 呼吸器内科 リウマチ・腎臓内科 糖尿病・内分泌内科 消化器内科
循環器内科 血液内科 腫瘍内科 消化器外科Ⅰ 消化器外科Ⅱ
心臓血管外科 呼吸器外科 整形外科 泌尿器科 麻酔科 形成外科
乳腺外科 救急科 脳神経内科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 皮膚科
精神科神経科 脳神経外科 リハビリテーション科 産科 婦人科 小児科
放射線治療科 放射線診断科・核医学診療科 病理診断科 歯科
- 病院長 南須原 康行
- 所在地 〒060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目
- 電話 TEL011-716-1161(代)

函館稜北病院（協力型病院・総合診療領域）

- 病院名 函館稜北病院（研修実施責任者：佐々木 悟）
- 開設者 医療法人社団道南勤労者医療協会
- 病床数 一般 56 床、療養 48 床
- 病院名 木田 史朗
- 所在地 〒041-0853 函館市中道2丁目51番1号
- 電話 TEL0138-54-3113(代)

市立函館保健所（研修協力施設・保健医療行政領域）

- 病院名：市立函館保健所（研修実施責任者：山田 隆良）
- 所長名：山田 隆良
- 所在地：〒040-0001 函館市五稜郭町 23-1
- 電話：TEL0138-32-1512(代)

渡島保健所（研修協力施設・保健医療行政領域）

- 病院名：渡島保健所（研修実施責任者：岩田 顕）
- 所長名：岩田 顕
- 所在地：〒041-8558 函館市美原 4 丁目 6 番 16 号 渡島合同庁舎内
- 電話：TEL0138-47-9524(代)

●臨床研修の到達目標、方略及び評価

臨床研修の基本理念（医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令）

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

―到達目標―

I 到達目標

医師は、病める人の尊厳と公衆衛生に関わる職業の重大性を深く認識し、望ましい医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、医師としての基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務を遂行できる横断的な資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

医師としての社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、変化する社会と限りある資源に配慮した公正な医療の提供と公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の意向や自己決定権を尊重しつつ、患者の苦悩・苦痛の軽減と福利の改善を最優先の務めと考え行動する。

3. 人間性の尊重

個々人の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って、患者や家族に接する。

4. 自らを高める姿勢

医師としての自らの言動を常に省察し、資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳と生命の不可侵性を尊重する。

- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、適切に管理する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 主な症候について、鑑別診断と初期対応ができる。
- ② 患者に関する情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮して臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最善の治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的を理解する。
- ② チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応ができる。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学医療の発展に寄与する。

- ① 医療上湧きがってきた疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 早い速度で変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職を教え、共に学ぶ。
- ③ 国内外の政策や医療上の最新の動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、単独での診療を任すことができる。

1. 一般外来

症候などの臨床問題を適切な認知プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患のフォローアップができる。

2. 病棟

入院患者の一般的・全身的な診療とケアができる。

3. 初期救急

頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対応できる。

4. 地域医療

地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健に関わる種々の施設や組織と連携できる。

Ⅱ 実務研修の方略

研修期間

2 年間

ローテーションする分野・診療科

【1 年次必修科目】

内科 24 週（糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科にて各 8 週ずつ研修）

救急 8 週（麻酔科における 4 週分を含む）

麻酔科 4 週

外科 4 週

小児科 4 週

産婦人科 4 週

精神科 4 週（協力型病院（函館渡辺病院、八雲総合病院）にて研修）

【2 年次必修科目】

地域医療 4 週（協力型病院（松前町立松前病院、ななえ新病院、八雲総合病院、奥尻町
国民健康保険病院）にて研修）

救急 4 週

【選択科目】

上記必修科目および、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿
器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、腫瘍内科、脳神経内科、等

44 週（選択科目により、協力型病院（北海道大学病院、函館渡辺病院、八雲総合病院）
と協力して研修）

※救急部門研修は、麻酔科（ICU）における挿管・血管確保などの基本手技の習得（8 週
の内 4 週）および、救急外来（当直）における初期救急医療の現場体験（2 年間を通し
ての輪番日におけるローテーションにて 8 週分）にて達成する。

※一般外来研修は、内科および小児科研修時に並行研修にて研修。地域医療研修時に協力
型病院にて研修し達成する。

※在宅医療研修は、内科および地域医療研修時に達成する。

※CPC 実施施設：函館中央病院

経験症候

下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、妊娠・出産、成長・発達の障害、終末期の症候（29 症候）

経験疾病

下記の疾病を有する患者の診療にあたる。

脳梗塞・脳出血・脳動脈瘤・くも膜下出血、認知症、心筋梗塞、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、COPD、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折・捻挫、糖尿病、脂質異常症、気分障害、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物等）（26 疾病）

Ⅲ 到達目標の達成度評価

各分野・診療科のローテーション終了時に、指導医・上級医・医師以外の医療職が下記の項目からなる研修評価票を用いて、到達目標の達成度を評価し、研修管理委員会で保管する。

到達目標の達成度については、少なくとも年２回、プログラム責任者・研修管理委員会委員による形成的評価（フィードバック）を行う。

到達目標 C. 基本的診療業務については、２年間の研修終了時に、研修管理委員会において、「コンサルテーションや医療連携が可能な状況下での単独診療」を任せることができるかどうか判定する。

研修評価票

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）に関する観察記録・コメント （360 度評価）

- ・ 社会的使命と公衆衛生への寄与
- ・ 利他的な態度
- ・ 人間性の尊重
- ・ 自らを高める姿勢

B. 資質・能力に関する観察記録・試験（マイルストーン）

1. 医学・医療における倫理性
2. 医学知識と問題対応能力
3. 診療技能と患者ケア
4. コミュニケーション能力
5. チーム医療の実践
6. 医療の質と安全の管理
7. 社会における医療の実践
8. 科学的探究
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

●臨床研修の目標の達成度判定票

臨床研修の目標の達成度判定票

研修医氏名：_____

A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)		
到達目標	達成状況: 既達／未達	備 考
1.社会的使命と公衆衛生への寄与	☐ 既 ☐ 未	
2.利他的な態度	☐ 既 ☐ 未	
3.人間性の尊重	☐ 既 ☐ 未	
4.自らを高める姿勢	☐ 既 ☐ 未	
B.資質・能力		
到達目標	既達／未達	備 考
1.医学・医療における倫理性	☐ 既 ☐ 未	
2.医学知識と問題対応能力	☐ 既 ☐ 未	
3.診療技能と患者ケア	☐ 既 ☐ 未	
4.コミュニケーション能力	☐ 既 ☐ 未	
5.チーム医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
6.医療の質と安全の管理	☐ 既 ☐ 未	
7.社会における医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
8.科学的探究	☐ 既 ☐ 未	
9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢	☐ 既 ☐ 未	
C.基本的診療業務		
到達目標	既達／未達	備 考
1.一般外来診療	☐ 既 ☐ 未	
2.病棟診療	☐ 既 ☐ 未	
3.初期救急対応	☐ 既 ☐ 未	
4.地域医療	☐ 既 ☐ 未	
臨床研修の目標の達成状況		☐ 既達 ☐ 未達
(臨床研修の目標の達成に必要な条件等)		

年 月 日

函館中央病院臨床研修プログラム・プログラム責任者 片岡 宙門

●募集要項

◇募集人員

6名

◇処遇

勤務時間 平日 9:00 ～ 17:00 土曜日 9:00 ～ 13:00
※基本的に研修目的以外の時間外勤務・休日勤務については無し

身分 常勤嘱託医

給与 基本手当 1年次 460,000円/月（賞与・固定残業代を含む）
2年次 480,000円/月（賞与・固定残業代を含む）
諸手当 扶養手当・通勤手当（当院職員就業規則準拠にて支給）
救急研修手当 1回につき 56,000円
（平日・土曜 17:00-9:00 の場合/1回）
住宅手当 60,000円
※病院契約による近隣のマンションの斡旋あり
出張旅費（外部研修活動費）
1年次 200,000円 2年次 250,000円
※旅費は当院支給規定による

社会保険 健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険 加入

賠償責任保険 病院において医師賠償責任保険の加入あり（個人加入は任意）

健康管理 健康診断（年1～2回）

休暇 年次有給休暇
※1年次 10日/2年次 11日 プラス前年度繰越日数
年末年始休暇（12/30～1/4）
長期休暇（連続休暇3日間＋有給休暇3日）

研修医専用室 レジデントルーム・多目的室（2室/北棟4・5階）完備

◇応募資格

既卒または令和8年卒業見込みで、医師国家試験（第120回）受験予定者

◇応募書類

採用試験申込書 兼 履歴書（写真貼付）（当院指定書式による）
健康診断書（大学発行のもので可）、卒業（見込）証明書、成績証明書

◇選考方法

面接試験（対面）を行って選考し、医師臨床研修マッチングにより決定

◇選考試験

令和7年7月30日・8月13日・8月20日・8月27日・9月3日
当院院長室にて
（宿泊手配と交通費一部支給）

◇参考

採用実績 … 北大・札医大・旭医大・東邦大・秋田大・信州大・日大・岩手医大
山形大・香川大・帝京大・弘前大・昭和大・三重大・千葉大・山梨大
神戸大・琉球大・順天堂大・東京医科歯科大・東京女子医大・九州大
日本医科大